



長期評価の地震発生確率値について

～南海トラフ地震の今後 30 年の発生確率更新～

地震調査研究推進本部(以下、「地震本部」)は、2025 年 1 月 15 日に活断層及び海溝型地震の長期評価による地震発生確率値の更新について公表しました。その中で、南海トラフ地震の今後 30 年の発生確率の表記が、「70%～80%」から「80%程度」に変更されました。

表1:発生確率の更新前後の比較(基準日:2025 年 1 月 1 日)

南海トラフ ^(注1)	2024年1月1日時点の評価	2025年1月1日時点の評価
M8～M9クラス	Ⅲ＊ランク	Ⅲ＊ランク
平均発生間隔	88.2年	
ばらつき α	0.20～0.24	
経過率	0.88	0.90
10年	30%程度	30%程度
20年	60%程度	60%程度
30年	70%～80% (74%～81%)	80%程度 (75%～82%)
40年	90%程度	90%程度
50年	90%程度もしくはそれ以上	90%程度もしくはそれ以上
100年	90%程度以上	90%程度以上
300年	90%程度以上	90%程度以上

「長期評価による地震発生確率値の更新について(令和7年 1 月 15 日)」(地震本部)

(URL:https://www.static.jishin.go.jp/resource/evaluation/long_term_evaluation/updates/prob2025.pdf) を加工して作成

Q : 30 年確率の表記が変更されたけど、地震発生の危険度が高くなったの？

A : 急に危険度が高まったわけではありません。

表1赤枠の中でカッコ内に確率の計算値が記載されています。この値をみると、確率が急に上がったわけではなく、上がった確率は1%程度です。計算結果の丸め(四捨五入)によって、表記が「80%程度」に変更されました。

南海トラフの長期評価における地震の発生確率は、時間の経過とともに確率値が増加するモデルを用いており、想定された地震が発生しない限り、時間の経過とともに徐々に増加します。そのため、今後このような変更は考えられます。

Q : 2024 年8月8日や、2025 年 1 月 13 日に発生した日向灘の地震を受けて 30 年確率の表記を変更したの？

A : 上記の地震発生を受けての変更ではありません。

地震本部では、活断層及び海溝型地震の発生確率について、基準日を毎年1月1日現在として再計算を行い、長期評価による地震発生確率値を更新しています。

そのため、今回の確率値の変更は、基準日を 2025 年 1 月 1 日にして再計算したことによる更新であり、日向灘の地震の発生を受けて変更となったわけではありません。

Point

30 年確率の表記変更によって急に南海トラフの地震の危険度が高まったわけではありません。

しかし、前回の南海トラフ地震が発生してから約 80 年が経過した現在では、**次の南海トラフ地震発生の切迫性が高い状態であることに変わりはありません**ので、日ごろからの備えをお願いします。